



# 埼医FAXニュース

## 編集・発行

埼玉県医師会広報担当 松山 真記子

[https://www.saitama.med.or.jp/kaiin/kaiin\\_7.html](https://www.saitama.med.or.jp/kaiin/kaiin_7.html)

## 埼玉県医師会臨時代議員会速報<3月14日>

令和6年3月14日(木)、埼玉県県民健康センター2階大ホールにおいて、第179回埼玉県医師会臨時代議員会(出席代議員数 161)が開催された。

代議員改選後初めての代議員会であるため、年長者の熊谷市医師会 斎藤洪太代議員が臨時議長に選出され、議事録署名委員の指名に引き続き、県医師会代議員会議長及び副議長の選定が行われた。

代議員会議長の選定は、定数1人のところ本庄市児玉郡医師会 高橋茂雄代議員1人の立候補であったため、無投票で高橋代議員が代議員会議長に選定された。

引き続き、斎藤臨時議長により、代議員会副議長の選定が行われ、定数1人のところ比企医師会 濑川豊代議員1人の立候補であったため、無投票で瀬川代議員が代議員会副議長に選定された。

なお、6月13日(木)開催の第180回定例代議員会において、埼玉県医師会長・副会長・常任理事の選定、並びに理事・監事・裁定委員の選任が行われる。

### 議 事

第1号議案 日本医師会代議員及び予備代議員の選出について決議を求める件

第2号議案 令和5年度埼玉県医師会会員の会費減免申請に関し承認を求める件

第3号議案 令和6年度埼玉県医師会会員の会費減免申請に関し決議を求める件

第1号議案の日医代議員及び予備代議員の選出は、どちらも員数どおり立候補だったので無投票で決定、第1号議案について決議された。

第2~3号議案についても原案どおり承認及び決議された。

### 報 告 事 項

- (1)令和6年度埼玉県医師会事業計画
- (2)令和6年度埼玉県医師会収支予算

会長挨拶をもって閉会した。  
(詳細は「埼玉県医師会誌」に掲載予定)

損害保険・生命保険のお問い合わせ・ご相談は  
**(有)埼玉メディカル**

〒330-0062 さいたま市浦和区仲町3-5-1  
TEL 048-823-9230 / FAX 048-823-9260

### — 結 果 —

#### 埼玉県医師会代議員会議長

高橋茂雄(2期目、本庄市児玉郡)

任期:令和6年2月1日~令和8年1月31日

#### 埼玉県医師会代議員会副議長

瀬川 豊(2期目、比企)

任期:令和6年2月1日~令和8年1月31日

#### 日本医師会代議員(氏名は公示順)

金井忠男(所沢市)、原 直(越谷市)

桃木 茂(大宮)、峯 真人(岩槻)

登坂英明(浦和)、松山 真記子(比企)

小室順義(入間地区)、丸木雄一(さいたま市与野)

高橋茂雄(本庄市児玉郡)、長又則之(熊谷市)

松本雅彦(大宮)、鹿嶋広久(川口市)

高木 学(南埼玉郡市)、水谷元雄(浦和)

廣澤信作(狭山市)、松本眞彦(草加八潮)

任期:令和6年6月22日~

令和8年の日医定例代議員会開催日の前日

#### 日本医師会予備代議員(氏名は公示順)

草彅博昭(三郷市)、丸山元孝(坂戸鶴ヶ島)

河本英敏(行田市)、八代利伸(川口市)

飯島竜之(大宮)、松本 郷(秩父郡市)

玉城吉郎(上尾市)、金子健二(蕨戸田市)

寺師良樹(入間地区)、齊藤正身(川越市)

関谷治久(東入間)、内藤毅嗣(草加八潮)

中村靖史(春日部市)、桐澤重彦(浦和)

長江 厚(川口市)、内田 治(北足立郡市)

任期:令和6年6月22日~

令和8年の日医定例代議員会開催日の前日

### お知らせ

#### 第12回埼玉消化器がん検診研究会

日時:令和6年4月6日(土) 14:30~17:30

場所:大宮ソニックシティ 9階 906(及びWEB)

共催:埼玉消化器がん検診研究会、埼玉県医師会、EA フアーマ(株)

問合せ:EA フアーマ(株)

首都圏支店埼玉営業所(担当:瓜本)

TEL 090-1039-6342

Mail mitsutaka\_urimoto@eapharma.co.jp

**金井会長挨拶**

代議員の先生方には第179回臨時代議員会に出席をいただき有難うございます。

能登半島地震が元旦に起こり甚大な被害となってしまいました。2011年の東日本大震災直後に当時の岩手県医師会会長から幾つかの依頼がありました。強く印象に残ったことは、活動資金が必用だというお話をしました。取り急ぎ郡市医師会に募金をお願いし、1か月程度で1億円が集まりました。すぐに、被災東北3県に送金いたしました。しばらく後に、今後、震災等大災害があった時に、各地の被災した医師会に対して支援金を出来るだけ早く、送ることを理事会および郡市医師会長会議で承認をいただきました。預金としてあるものの中でということです。

能登半島地震は今回1月1日の発災でしたので、1月4日に3副会長と急遽協議をし、日本医師会の松本会長とも相談の上、1月4日に石川県医師会に1,000万円の送金をさせていただきました。その後、郡市医師会の先生方に大変なご協力をいきまして、預金も増えたという状況もありました。石川県医師会の安田会長とも時々電話でお話をさせていただきますけれども、なかなか大変であるというお話を伺いました。そこで2月26日に2回目として、また1,000万円を送金し合計2,000万円を石川県に送金させていただきました。各種団体に送るのは支援金で、これについては当医師会では行うことができるのですが、日本医師会は日本を代表する医師の団体で社会的な貢献をする必要があり、1つの団体に送るということはできないということから、義援金が集まると日赤等への経路になろうかと思います。しかしながら、我々は医師会に対して支援金という形で行うことができますので、日本医師会の行っていることとは若干ずれてしまうのですが、その都度、日本医師会の松本会長に連絡をして許可を得た上で送金を行いました。そして現在ですが、まだ手付かずで倒壊している家屋があり、避難者もたくさんいる状況です。

2016年に熊本地震がありました。その時、約270人が亡くなっていますが、震災による直接の死亡については50人ぐらいで、80%以上は関連死であったとも言われております。それから東日本大震災では、関連死の50%以上が避難所において亡くなつた方であると言われております。石川県で、現在まで亡くなられた方は243人だと思いますが、関連死というものは15人しか今のところ確認されておりません。それが何故なのかは今後検証されていくのかと思いますけれども、恐らく良い結果をもたらしたのが例えばJMATで、医療支援活動が非常に活発に行われ、しかも有効に行われていたことかと思っております。日本医師会に埼玉県も多くJMAT派遣申請をし、多くのチームに入っていただきました。それらをコントロールする形で、日本医師会が今行っています。重複することなく切れ目なく、非常に有効な形で行つていただいていることから、関連死も少ないのかなと考えているところです。

新型コロナウイルス感染症について、本日も県保健医療部の方から常任理事会において説明を受けたところで、6週連続で減少しております。コロナについては1波、2波、3波と数えられてきて、第8波までは数えてきました。昨年5月8日の5類移行後は、総数把握から定点把握という形に変わりました。定点把握になったことによって、9波、10波という表現は一切国ではしておりません。ただ、分かりやすいためにお話をさせていただきますと、今が10

波かなと思っており、その中でピークアウトし、今6週間連続の減少となり、非常に少なくなってきたと感じます。それから入院患者も減少をしていて、重症で入院しているという方は1桁しかおりません。コロナの方もだいぶ収まってきたと思っております。

また、今年は診療報酬改定の年です。昨年12月に改定率が決まり、プラス0.88という結果でした。多くの先生方から評価は受けていると考えておりますけれども、今の能登半島地震のお話ですとか診療報酬改定につきましては、本日の臨時代議員会へ代議員として日本医師会の松本会長がお見えになっており、議長に許可をいただいておりますので、後ほどご挨拶とともにご説明いただきたいと思っております。

それから先生方よくご存知かと思いますけれども、コロナの専門家会議または分科会のメンバーとして、よくテレビに出ていた日本医師会常任理事の釜范敏先生が、令和7年7月の参議院比例代表選挙における日本医師会の組織内候補者に決定したということです。非常に真面目な先生ですし、日本医師会の中で医師連盟の担当常任理事を長く務めていて、政治家との関連も深いという先生です。今年の診療報酬改定の時も頑張っていただきましたし、今後の診療報酬等へ対応していただくのに、最適だと個人的には理解しております。

本日の第179回臨時代議員会ですが、議事としては日本医師会代議員及び予備代議員の選出、令和5年度埼玉県医師会会員の会費減免追加申請、それから令和6年度埼玉県医師会会員の会費減免申請につき、決議または承認をいただくものとなっております。それから2月1日開催の理事会において承認をされました、令和6年度埼玉県医師会事業計画、それから令和6年度埼玉県医師会収支予算について報告をさせていただきます。

よろしくお願い申し上げます。

### 〈新型コロナウイルス感染症対策会議について〉

会議結果をお知らせいたします。

第137回 令和6年3月14日(木)午後1時50分～

常任理事会構成メンバー

県行政(保健医療部 谷口医療政策幹他4名)

金井会長;本日も県の担当に出席いただいている。説明をお願いする。

谷口医療政策幹;感染動向であるが直近での定点報告数が6.67で、6週連続で減少しているが、先週比では、ほぼ横ばいとなっている。現象の流れが足踏みしている状況である。インフルエンザは3週連続で減少していたが、このたび増加に転じている。コロナ、インフルエンザとともに20歳未満の感染者が増えている。溶連菌についても若干の増加となっている。相談件数は、ほぼ横ばいとなっている。入院者数であるが、直近で653人となっており、2月17日の1,077人をピークに減少傾向である。外来の逼迫状況は、直近で9.4%と5月下旬以来の1桁となっている。診療・検査医療機関の指定件数も1,900を超えて、1,901医療機関となった。来年度以降の発熱外来に繋げていこうと思う。

岸ワクチン対策幹;ワクチン関係では、9月20日から3月10日までの173日間の実績は、県全体の接種回数が1,724,424回で県人口の23.4%で、前週比プラス0.1%である。高齢者は、1,119,809回で高齢者人口の56.6%であり、前週比プラス0.2%である。

## 最近のトピックス

## ■参院選、医療関係で「最多得票を目指す」

## 日医連候補の釜范氏■

来年夏の参院選で、日本医師連盟（日医連）の組織内候補となった日本医師会常任理事の釜范敏氏は本紙の取材で、自民党から比例代表候補の公認を得た上で、医療関係候補の中で最多の得票を目指したいと意欲を示した。「国民の健康と命を守るために、医師会が果たす役割は非常に大きい」と強調した。

釜范氏は、日医連が1月に実施した組織内候補の公募に応募し、組織内候補に決まった。「選んでいただいたことは光栄だ」と述べた。

これまで組織内候補として当選した参院議員の羽生田俊氏、自見英子氏は「大きな役割を担っている」と説明。自身が当選すれば、「その役割をしっかりと引き継いで担えるようにしたい」と話した。

議員として果たすべき役割の一つとして、日医内での検討に必要となる政治動向、政府の方向性の情報を、適時に提供することを挙げた。日医との連携を重視する構えだ。

## ●支持拡大、まずは医師中心に

今後、医師を中心に、支持拡大を図る考えを示した。「なるべく幅広い国民の支持を賜りたいが、参院比例の選挙は、投票所に行って名前を書いてもらわなければならない。その可能性があるのは、まずは医師およびその家族だと思う」と語った。

党の公認を得た後に、都道府県や郡市区の医師連盟への訪問を本格化させる姿勢だ。知名度の向上と、自身が訴える政策への理解を求めて、活動を展開するとした。

## ●「調整能力」をアピール

自身のアピールポイントとしては、「調整能力」を挙げた。

「日本の医療体制は、コロナの例を挙げるまでもなく、諸外国と比べて優れており、充実している。ただ、若年人口が急激に減り、いろいろな職種が人手不足になる中で、今ままの体制を続けていくことは難しいと予想される」と指摘した。

適正な医療体制を維持するために、「医療提供側はできるだけ無駄を省く努力が、さらに必要だろう」とした。「財源の手当でも必要だが、財源は限られる。全体をよく俯瞰した上で、丁寧に合意形成していくことが、目指したい方向性だ」と述べた。

日医役員を約10年務めている。コロナ禍では東京五輪開催の是非について、感染症専門家や関係者と協議。高崎市医師会の役員時代には、地元の中核病院整備に向け、自治体などと調整を進めた。

こうした経験は、合意形成を進める上で「生かすことができると思う」と説明。意見が対立する場合でも、さまざまな意見に耳を傾けながら、合意点を探る調整には「自信を持っている」とした。

※1

(記事はデイファクス※1:R6.3.14※3:R6.3.15※4:R6.3.18

日医FAXニュース※2:R6.3.19

各号より抜粋

\*次回のFAXニュース送信は、R6年4月6日の予定です。

## ■コロナワクチン、8300円を助成

## 自己負担は7000円、定期接種化で■

来年度の新型コロナワクチンの定期接種化に伴い、厚生労働省は3月15日、接種1回につき、自己負担の標準費用と見込んでいた7000円からの超過分として、8300円を市町村に助成すると発表した。今秋の定期接種用で流通するワクチン価格が、見積もりよりも増えるため、助成によって自己負担の軽減を図る。

## ●ワクチン価格と手技料で「1万5300円」

厚労省は昨年末、定期接種化に向け、来年度の標準的な自己負担額を7000円(ワクチン価格3260円、手技料3740円)と算出。しかし、その後のメーカーへの聞き取りを通じて、定期接種用に供給されるワクチン価格の見通しを1万1600円程度に修正した。手技料と合わせた費用は1万5300円程度になる。

このため、7000円としていた標準費用からの超過分8300円を、市町村に助成金として支給することにした。

今秋の接種開始に先立ち、各自治体に対し、接種数の見込みなどの報告を求める。その後の接種実績も踏まえて、ワクチン生産体制等緊急整備基金の管理団体から助成する。

コロナワクチンは、全額公費による特例臨時接種が3月末で終了する。4月からは重症化予防を目的に、新型コロナ感染症を予防接種法上のB類疾病として、65歳以上の高齢者、60~64歳の重症化リスクの高い人を対象に定期接種とする。定期接種化により、自己負担が生じることになる。

これまで厚労省は、実際のワクチン価格が見込みを超える場合は、対策を講じる考えを示していた。今回発表した取り組みは2024年度に関するもので、25年度以降の対応はあらためて検討する構えだ。

※2

## ■マイナ保険証の利用率、2月は4.99%

## 厚労省■

厚生労働省は14日の社会保障審議会・医療保険部会で、2月のマイナ保険証の利用率を示した。全国の利用率は、前月から0.39ポイント増加し、4.99%だった。

施設類型別は以下の通り。▽病院=11.55%(前月は10.81%)▽医科診療所=5.06%(5.00%)▽歯科診療所=10.06%(9.85%)▽薬局=3.42%(2.69%)—。

都道府県別の利用率も示した。上位5県は▽鹿児島(8.96%)▽福井(7.69%)▽鳥取(7.58%)▽富山(7.26%)▽石川(7.25%)—。下位5県は▽沖縄(2.56%)▽青森(3.13%)▽愛媛(3.14%)▽和歌山(3.22%)▽徳島(3.43%)—だった。

※3

## ■第118回医師国試、9547人が合格

## 合格率92.4%■

厚生労働省は15日、2月上旬に実施した第118回医師国家試験の合格者を発表した。

全体の出願者は1万614人、受験者数は1万336人で、合格者数は9547人だった。合格率は92.4%で、例年並みだった。

男女別で見ると、男性の受験者数は6804人で、合格者数は6240人(合格率91.7%)。女性の受験者数は3532人で、合格者数は3307人(93.6%)だった。新卒者に限ると、出願者数は9716人、受験者数は9489人で、合格者数は9048人(95.4%)だった。

近年、全体の合格率は▽2023年91.6%▽22年91.7%▽21年91.4%▽20年92.1%▽19年89.0%—となっている。

※4